

第3分科会

高齢者の社会参加と 福祉のまちづくり

—コミュニティ・ビジネス
をつくる企業・商店街—

古谷 直道（労協センター事業団）



第3分科会は、「福祉のまちづくり」「コミュニティ・ビジネス」「商店街の活性化」「高齢者の社会参加」というもっとも今日的な幾つものテーマが錯綜する実践交流と議論の場となりました。報告は、「地域福祉事業」と「商店街」という二つの極から発せられていたと思われる。

1. 地域福祉事業の展開

(1) 深谷における「福祉コンビニ」の実験

岡元かつ子（労協センター事業団）

竹石研二（シネマワーカーズ）

「深谷の労働者協同組合は、この13年の間に、生協物流現場からスタートして、豆腐工房、愛彩弁当、ヘルパー講座を経て、地域福祉事業所『だんらん』へと発展してきた。一方、映画を通して人のつながりを深め地域に貢献しようとするシネマ・ワーカーズ（労協連加盟、NPO）が、中心市街地の商店街にある老舗の洋品店の2階を映画館にして、活動を開始している。そして現在、豆腐の利用者が300人、弁当の利用者が100人、ヘルパー講座の卒業者が300人、介護保険利用者が100人、そして映画『愛染かつら』の鑑賞者が1,200人で合計2,000人のいわば労協ファンの人たちとのつながりを核として活動を続けている。」

「この深谷の労協グループと本部の共同企画プロジェクトが合同して、9月から『福祉コンビニ』の実験事業が始まった。①介護機器・健康用具の供給＝ヘルパーおよびヘルパー講座卒業生を対象にレベルアップ講座を開催し、機器・用具あるいは住宅改修についての理解を深める中で機器・用具を活用し住宅を改修して介護サービスの質を向上させる。これから料理教室も企画する。②文化（映画）と結んだデイサービス＝映画（君の名は）と移送サービス、介護相談、愛彩弁当による会食等を組み合わせたミニデイサービスを開始した。③『御用聞き・出前・個配つき商店街』という方式を構想し、高齢者の生活実態調査をし要求を聞きながら、市役所・商店街とも結んで中心市街地活性化への試みを行う。」

・労協・高齢協が推進する地域福祉事業所は、介護保険対応事業・福祉関連事業・生活総合事業という3層の事業を複合的・総合的に展開していこうとするものですが、このことに関するノウハウを得るためにも新しい切り口からの実験を始めています。新しい切り口とは、①文化、②情報、③ものであります。

この新しい試みを「福祉コンビニ」と銘打って、これに関心をもつ民間企業と一緒に共同企画のプロジェクトの形で進めています。そしてその最初の実験を埼玉県深谷市で始めました。

パネリスト

岡元カツ子（労協センター事業団）
 竹石研二（シネマワーカーズ）
 増田忠治（兵庫県高齢者生協）
 餌取順子（北海道労協旭川）
 林富士夫（秀峰園）
 古賀直樹（シニアネット久留米）

田中武夫（足立区東和銀座商店街）
 原田完（京都西新道錦会商店街）
コメンテーター
 八幡一秀（作新学院大）
 矢作弘（日本経済新聞）
コーディネーター
 古谷直道（労協センター事業団）

深谷での福祉コンビニは、まだ実験の段階ですが、すでに興味深い成果が現れています。「なるほどこれは面白いし、大事なことようだ」という評価が出始めてきました。地域福祉事業所の事業を出来るだけ複合的・総合的なものにして行く必要性を痛感します。

(2) 伊丹の全小学校区でヘルパー養成作戦 増田忠治（兵庫県高齢者生活協同組合）

「伊丹は空港と自衛隊の町であった。空港騒音公害反対の住民運動が町の歴史を特徴付けている。この運動の中で高齢者・障害者のための福祉の充実・強化が推進された。伊丹労協の福祉事業は十数年の歴史をもっている。介護保険の時代を迎え、これまでの実績の上に市の援助が得られ、複合型福祉施設が建設され、これを中心として在宅介護の事業は順調に進展を見せている。伊丹の高齢協は、すべての小学校区（17）で地区社会福祉協議会と組んで、ヘルパー養成講座を開催し、3～5年のうちに、全ての小学校区に地域福祉事業所を開設する計画を立て、実行を開始した。」

伊丹においては、これまでの歴史的な成果の上に、介護保険への準備を見事にやりあげ、地域福祉事業で着実な成功を収めつつあります。そしてこの事業をさらに地域に密着したものとして発展させるために、小学校区すべ

てにおいてヘルパー講座を開催し、地域福祉事業所を開設しようと計画しています。こうして伊丹は報告者の増田さん（75歳）のような元気な高齢者が活躍する元気な街に変貌して行くものと期待されます。

(3) 旭川の地域福祉活動

餌取順子（北海道労働者協同組合旭川事業所）

「旭川では、精力的にヘルパー講座を開催し、6つの地域福祉事業所を開設し、4月からの介護保険の施行に対応してきた。3月段階（措置制度下）での介護サービスは700時間であったが、12月には3,000時間になるであろうと予想されている。先日ケアワーカー集会を開いたら200名ほど集まった。介護の質の向上と地域コミュニティをどうしていくかについて話し合った。現在、3つの新しい地域福祉事業所開設の準備をしている。①民家を改造したデイサービス、②共同作業所と合同で宅配給食、③診療所を改造したショートステイ」

旭川においても、急速に労協・高齢協の地域福祉事業が、営利企業の進出を抑えて進展しています。ここでも単に在宅介護だけでなく、通所介護や給食などの分野への複合化がすでに力強く始められています。

(2) 安心して暮らせるまちづくりのために 田中武夫 (足立区東和銀座商店街振興組合)

「商店街は頼りになる街でなければならない、との考え方から、足立区内の商店街では「よろず相談所」の看板をあちこちに掲げた。市役所とも組んで『足立区の安心ネットワーク』の一環として、地域の人たちが何か困ったことや、ちょっと相談したいときに気軽に立ち寄れるきっかけを作っている。また、商店街に2級ヘルパーを配置しようと考え、ヘルパー講座にも参加している。」

「さらに、商店街ではNPO的な株式会社を設立し、地域の様々な仕事（病院内のレストラン・売店・清掃、宅配弁当、魚屋、パン屋など）を事業として地域の人たちの雇用創出の面でも頑張っている。魚屋は、元の魚屋さんは赤字に懲りて止め、この会社で清掃の仕事をしている。この会社は、商店街に魚屋が無いのはいけないとの考え方で、依然として赤字ながら魚屋を経営しつづけている。」

足立区の田中会長は、商店街の活性化にとってもあつい情熱をもって取り組んでおられます。商店街はこれまで街になくはならないものであったし、これからもそうでなければならない。しかし、そうなるためには、商店街は地域の人たちの頼りになる存在でなければならない。地域に貢献してこそ人は商店街に来てくれる。こう信じて、これを人々に語り続けつつ、様々な工夫を編み出し試みを発展させています。

(3) 商店街の新規事業取組みについて 原田 完 (西新道錦会商店街振興組合)

「この商店街の基本的な考え方は、『地域への貢献を大切にし、お客様と商店街・商店との精神的距離を接近させえ、商店街へ足を向

けてもらう』ということである。この考え方に基づいて、ファックスネットによる御用聞きに700世帯を組織化している。今度はこれをインターネットで実現し、さらに充実した地域コミュニケーションを築いていこうとしている。」

「また、ローカルエリア電子マネーの実験を進め、将来的には全国各地のカード事業の相互乗り入れができるように、さらに『行政カード』『医療カード』『クレジットカード』などの多様な発展を展望している。」

「このほか、空き店舗を利用した商店街給食サービス、堀子川の親水公園化の運動にもとりくみ、『住みやすい地域づくり』『人が住みつづけたいと思う街づくり』を進めている。」

京都西新道の商店街は、はっきりとした長期の戦略を立て、じっくり構えながらも着実に進めているという力強さを感じさせます。商店街情報の発信や御用聞きについて、これまでファックスで700世帯をつないできた実績の上に今度はインターネット活用に移って行く。さらに各種カードの扱いもこれに連動させて行くといった調子です。

3. コメント

矢作 弘さん(日本経済新聞社)は、これまでの報告について、4つのキーワードに沿って、次のようにコメントされました。

① 「負の資産」を活用して コミュニティ・ビジネス

各報告では、皆さんが地域の財産・資産を見直すということをされている。具体的には、高齢者、空き店舗などこれまで負の資産と見られていたものを見直して、これをうまく活用することでコミュニティ・ビジネスを成立させている。(久留米、深谷、足立)

② パートナリシップ

官と民、住民同士のパートナーシップによ

はありますが、若者も高齢者も農村に登場する気配があると同時に、商店街にも若者と高齢者が戻り始めたのでしょうか？

当日11月26日の読売新聞の社説で紹介されていた昔の新潟市の印象（明治初期に日本を

訪れた英国人の女性旅行家の旅行記による）は、「福祉のまちづくり」において念頭に描きたい風景と感じられました。

「旧市街は整然として清潔であり、居心地がよさそうな街だ。運河に沿って並木道があり、街路は絵のようだ。実に魅力的である。」

参加者の感想文より

増田忠治さん（兵庫県高齢者生活協同組合）

わたしの実践報告以外の7箇所からの報告を受けたが、非常に興味深く、又感銘を受けたことが多かった。特に、東京足立区と京都の西新道錦商店の二つの商店街の地域と共に生きるための活動報告については頭が下がる思いである。二人のコメントターの先生は話も大変参考になり、これからの私たちの活動のあり方を明示して頂くことができました。はじめてこの集会に参加させて頂き、良い勉強ができました。感謝しています。今後更に実践を積み重ね、次回の集会にも元気で参加したいものです。

高橋芳子さん（山形県高齢者福祉生活協同会）

今、増加する高齢者とインターネットの活用は切り離せない関係となり、その点でシニアネット久留米の報告は時代にぴったりという感がありました。また、地域商店街の活性化はどこにも共通の悩みであり、大変参考になった。

中川太一さん（兵庫高齢協）

商店街に関する報告が多かったが、要はミニコミュニティづくりにとって一つの核となり得ることを示していると思う。地域福祉事業所やその他の住民サービスと結びつけることで地域コミュニティを構築できると思う。

伊藤三恵子さん（神奈川県高齢協）

伊丹の増田様、空港騒音公害反対運動、住民組織の確立は立派だと思いました。神奈川県にも横須賀から厚木基地まで毎日のように、騒音をまきちらしてうるさくて夜テレビも満足にみられません。

皆で団結してやめさせたいと思っています。足立区の田中様の魚屋さんの30万～50万も赤字をだしても住民の為にがんばっている様子、原田様のしっかりしたお話、西陣織がすたれてしまって淋しい気がします。上に立つ指導者がしっかりしているところは立派にやっているとしました。今日は参加できて本当に良かったと思いました。私は小3の時父を亡くし、大学には行けませんでした。今日は立派な学芸大学の門をくぐる事が出来ました。

江田竜也さん（一般）

色々な地域、社会のニーズに応じて、時代の流れの速度について行く事、福祉事業の展開、全く自分の知らない部分など参考になった。やはり寒かった。自分にこれまで縁のない世界だったので、これから生きていく上で非常に参考になる部分、情報等を吸収できた。

辻政夫さん（センター事業団藤沢事業所）

色々な経験で苦勞されている人たちの話を聞いて大変面白く、ためになりました。自分で何が出来るかということもあるが、誰にやってもらったらいいか、人集めに徹することだと感じました。コンピューター教室もハードはどうするか。場所はどうかと悩んでいましたが、HPを開いて経験者を集め訪問教室を行えば解決することを教えられた。地域に打って出る高齢協をめざして頑張りたい。